派　遣　報　告　書（報告者；千原　翔太　）

大会名	第１３回九州ジュニアオールスター交歓大会
開催地	熊本県大津町総合体育館
日　時	平成　２７　年　　２　月　２８　日～　３月　１日
担当ｹﾞｰﾑ	（女　予選リーグ）　　佐賀県　　ｖｓ　熊本県Ａ
相手審判	主審　山城　力：(沖縄県)
ミーティング内容（主任：　　西村　かおり　氏　　）	
ゲームは接戦であったが、ファールは一貫して取り上げており安心して見ることができたという反省をいただいた。試合中にドリブルウィーブを用いてのオフェンスを組み立てるケースが多く、トレイルのポジションの位置取りに苦労をした。下がって見ることや、オフェンスの動きでなくスペースの見える位置を考えながら動くことで解消するのではないかとアドバイスをいただいた。	
担当ｹﾞｰﾑ	（男　予選リーグ）　　宮崎県　　ｖｓ　熊本県Ａ
相手審判	主審：　鶴田　祐介　（鹿児島県）
ミーティング内容（主任：　豆塚　宣男　氏　　）	
ゲームは難しい接触などを伴うケースは、無かったがブラインドからのコールが多くあり、改めてスペースウォッチングの大切さを痛感させられた。また豆塚氏より、お互いの審判が視野を合わせる機会を増やしたりポジショニングの位置を考えながら動くことでレフリングの質が向上するというアドバイスをいただいた。プレイヤーだけでなく、審判の意思疎通が今後の課題であると感じた。	
担当ｹﾞｰﾑ	（女　３位リーグ）　　鹿児島県　　ｖｓ　熊本県Ａ
相手審判	副審：澤邊　匡佑　　（熊本県）
ミーティング内容（主任：　井元　誠　氏　　）	
カンファレンスではオールコートの受け渡しやハーフコートでの視野分担などを話した。今回の試合は序盤から点差が大きく開いた展開で進んでいっ	

た。反省では、スペースを捉えようと右に左に動き過ぎてしまい、落ち着き
がないように見える。予測を立ててスペースをしっかりと捉えるということ
をしなくてはならないという反省をいただいた。
大会を終えての感想
今大会を終えて、トレイルでのポジションの捉え方に新しい感覚を身につけ
ることができたように感じています。従来のボールによって自分の位置取り
が決まるのではなくボールを意識しつつもスペースを追いながら見るという
方法を今後は試していきたい。また、講師である丹後正昭氏から九州の高い
バスケットボールのレベルに若手の審判はまだ追いついていないというお言
葉をいただきまだまだ自分自身の取り組みの甘さ、日常生活の意識の低さを
ま痛感させられした。今後の審判に活かしていきたいと考えています。
最後になりましたが、２日間に渡り講習会の運営をしていただいた熊本県バ
スケットボール協会、派遣の機会を与えていただきました大分県バスケット
ボール協会の皆さまに感謝申し上げます。